

# 日本書道史

## 第14講 「現代の書流と漢字仮名交じりの書」

住川 英明 (岐阜女子大学)

# 第14講 「現代の書流と漢字仮名交じりの書」

## 【学習到達目標】

- 現代書のジャンルと昭和期の主な書家の作品について、説明することができる。
-

# 第14講 「現代の書流と漢字仮名交じりの書」

## 1. 現代書のジャンルと主な作品

- 現代書のジャンルは、大きく分ければ、漢字の書・仮名の書・漢字仮名交じりの書という3つになる。
- さらに細分化すれば、漢字の書（伝統派・感覚派）、仮名の書、漢字仮名交じりの書（近代詩文・調和体）、少字数書・前衛書、篆刻・刻字、という5つになる（田宮文平による）。
- 漢字仮名交じりの書については、現在の公募展などでは様々な名称で取り扱われている。

# 第14講 「現代の書流と漢字仮名交じりの書」

津金雀仙 《閻誦黃庭經在口（自詠）》

閻誦黃庭經在口  
 體身晚死意氣肯堪為伴  
 入林行不西女人  
 雀仙

小坂奇石 《寒山詩二首》

重巖我卜居  
 道絕人跡在  
 際何所為  
 日雲抱山石  
 白雲凡  
 幾年  
 屢見春  
 老  
 心  
 淨  
 鏡  
 鼎  
 承  
 唐  
 名  
 不  
 言  
 其  
 益  
 自  
 樂  
 平  
 生

道  
 中  
 甚  
 不  
 潤  
 石  
 中  
 情  
 多  
 放  
 曠  
 長  
 伴  
 白  
 雲  
 閑  
 有  
 路  
 不  
 通  
 車  
 心  
 氣  
 の  
 機  
 年  
 不  
 村  
 孤  
 名  
 坐  
 圓  
 月  
 上  
 寒  
 山  
 永  
 念  
 山  
 首  
 奇  
 石  
 記

# 第14講 「現代の書流と漢字仮名交じりの書」

西川寧 《倉琅先生詩・論画絶句》

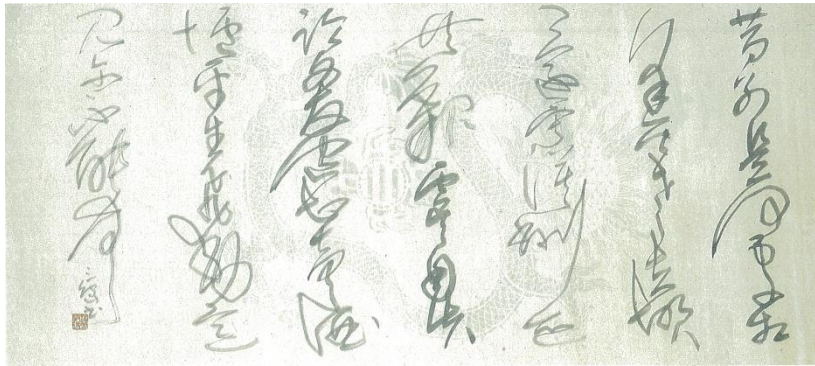
魏武苗孫有繪工又看  
馬氏出英雄海東画苑  
樹旗幟何讓將軍開  
出功 已里系日荷園解  
先師多張先生論畫絶句一

松井如流 《杜少陵詩》

用拙存吾道幽居近物情  
麻淡雨露燕雀半生成却鼓  
時之急漁自個輕杖藜  
首心跡喜雙清



# 第14講 「現代の書流と漢字仮名交じりの書」

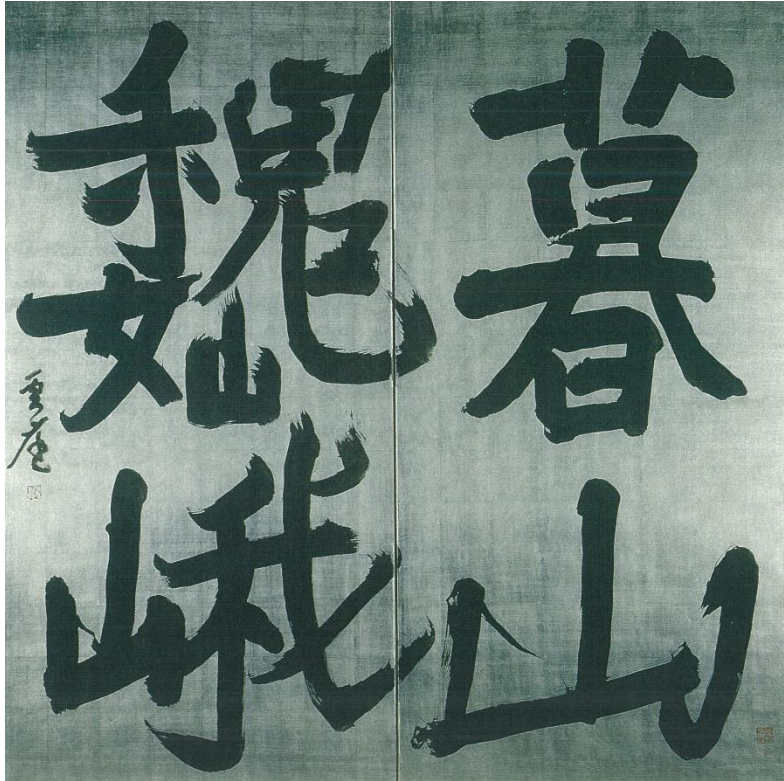


村上三島 《杜甫贈高式顔詩》



青山杉雨 《萬方鮮》

# 第14講 「現代の書流と漢字仮名交じりの書」



赤羽雲庭 《暮山魏峨》



廣津雲仙 《杜甫詩》

# 第14講 「現代の書流と漢字仮名交じりの書」

手島右卿 《崩壊》



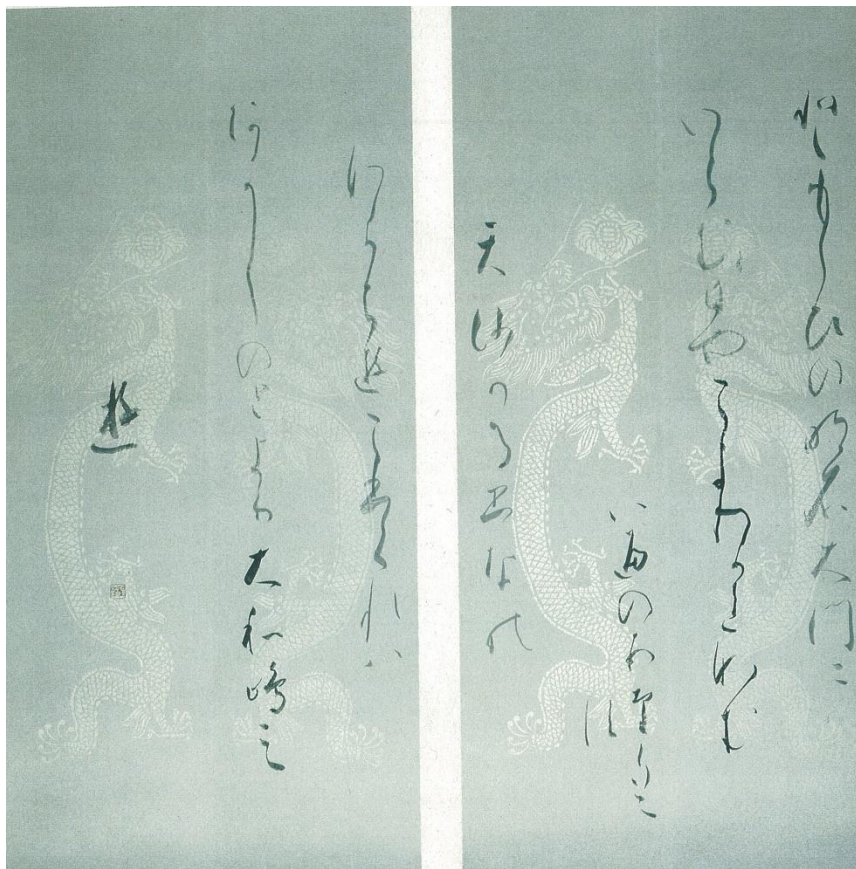
森田子龍 《道》



# 第14講 「現代の書流と漢字仮名交じりの書」



田中塊堂 《那智の滝》 (高浜虚子の句) 《

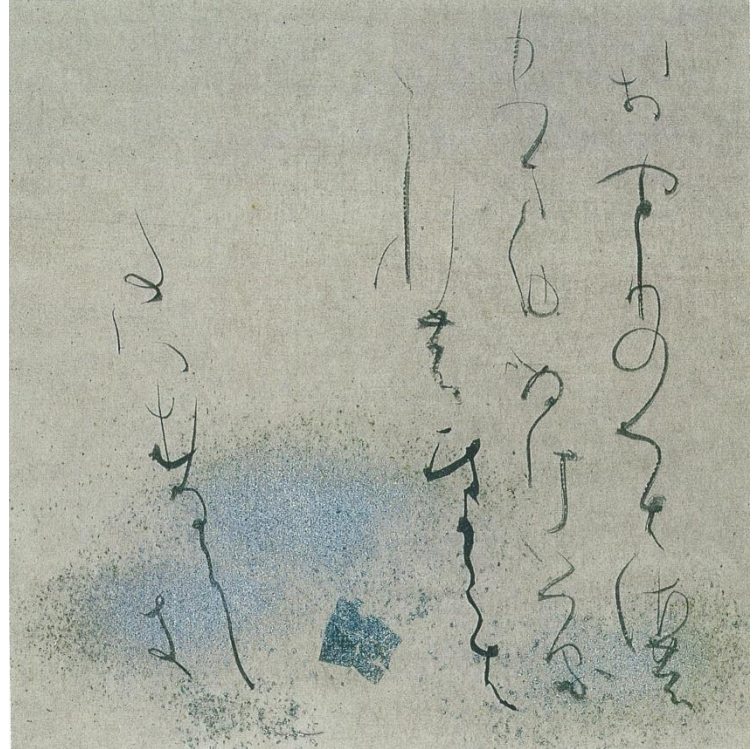


安東聖空 《あかし》 (万葉集・柿本人麻呂) 《

# 第14講 「現代の書流と漢字仮名交じりの書」



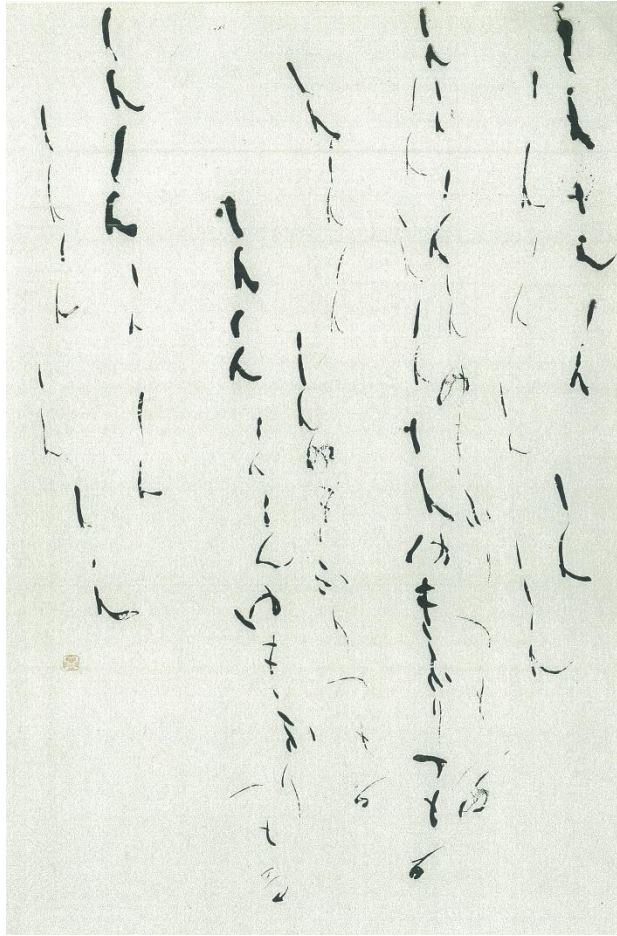
鈴木翠軒 《万葉千首（人麻呂の歌）》



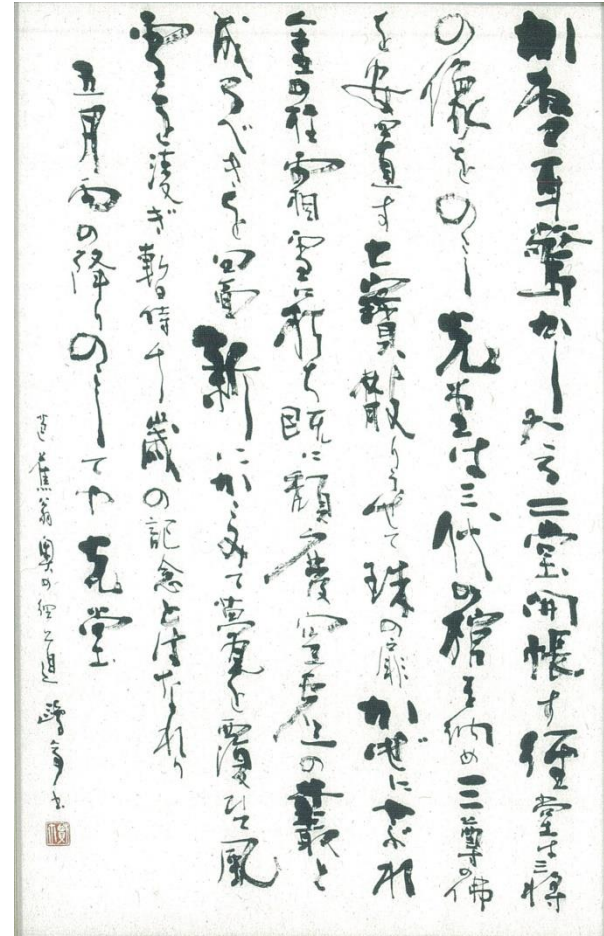
日比野五鳳 《ひよこ（島木赤彦の歌）》



# 第14講 「現代の書流と漢字仮名交じりの書」



青木香流 《ゆき》(草野心平詩) 《

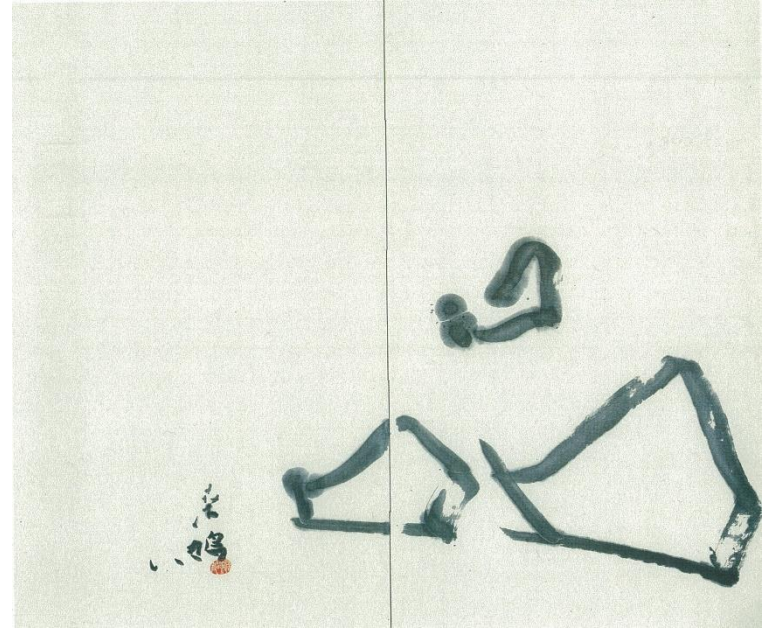


金子鷗亭 《松尾芭蕉奥の細道》 《

# 第14講 「現代の書流と漢字仮名交じりの書」



井上有一  
《愚徹》



上田桑鳩  
《愛》



# 第14講 「現代の書流と漢字仮名交じりの書」



小林斗盞 《日月齊光》



中村蘭台 《襲明》



山田正平 《白鷗心》

# 第14講 「現代の書流と漢字仮名交じりの書」

## 2. 漢字仮名交じりの書の展開

- 漢字仮名交じりの書の発生は、奈良から平安時代にかけての文字資料にみられる。
- 平安時代においては、漢字平仮名交じり文や漢字片仮名交じり文の遺品がみられる。
- 鎌倉から室町時代にかけて、絵巻の詞書や書状において、数多くの漢字仮名交じり書の遺品が見られるようになった。

# 第14講 「現代の書流と漢字仮名交じりの書」

## 2. 漢字仮名交じりの書の展開

- 尾上柴舟は、日常文などに用いる書きぶりの研究から、漢字仮名交じりの書への取組みの必要性を唱え、上代様と和様漢字を活用した実作と理論を発表した。⇒「調和体」
- 金子鷗亭は、現代人の生活感情を表現するにあたって、漢字の書の持つ書体の豊かさ、書風の多様性を活用した制作のあり方を提唱し、実作と理論を発表した。⇒「近代詩文」

# 第14講 「現代の書流と漢字仮名交じりの書」

## 2. 漢字仮名交じりの書の展開

- 金子鷗亭や飯島春敬らによる近代詩文書運動は、主に毎日書道展を舞台として展開された。
- この運動は、当初から「読みやすさ」や「平易さ」にねらいがあったこと、その「作品的な格調」の完成には、なお少し時間がかかることが指摘されていた。



# 課題

1. 漢字仮名交じりの書には「古典」がないといわれる。近現代の書家たちはその問題をどのように乗り越えようとしてきたのだろうか。討議してみよう。

# 第14講 「現代の書流と漢字仮名交じりの書」

## 【学習到達目標】

- 現代書のジャンルと昭和期の主な書家の作品について、説明することができる。
-

# 日本書道史

## 第14講 「現代の書流と漢字仮名交じりの書」

住川 英明 (岐阜女子大学)